

赤い靴通信 399号

JAL(日本航空)の初代松尾社長のモットーは「臆病者と言われる勇氣を持とう」でした。私も飛行機に関わりがあった者として、深く感銘し生涯の座右の銘としています。一瞬にして多くの命を無にしてしまうパイロットの心中は大胆な判断も必要ではあるけれど、時には臆病者と言われる氣持が大事です。同じような戒め言葉をシェクスピアの史劇に見付けました。ヘンリー四世、の中にあつた「A better part of valour is discretion」日本訳は「勇氣の大部分は分別だ」です。進むことを知って退くことを知らないような勇氣は、虎に素手で立ち向かったり、大河を歩いて渡ったりすることと同じと、中国の孔子が、子を戒める時の言葉として言っています。第2次大戦の英軍が行つたゲンケルクの撤退のような一兵も失わない退却は大きな勇氣なのであると言われていいます。私は先輩の多くを特攻隊として目の前で送りましたが、帰ってこない飛行機のパイロットはベテランでは無く操縦未熟の新人が多いと聞いて、残念でなりませんでした。日本の特攻隊の攻撃は自殺的攻撃と言われています。さて、毎年、募集し、いつも賞に輝く横浜市民こどもミュージカルは、今年も大勢の応募がありました。コロナ禍の影響で公演が中止になりました。その不自由なおうち時間に「心に残つた言葉」の課題を出したのですが、かなりの言葉が集まっています。9月13日(日)には横浜市開港記念会館で発表出来るように準備を進めています。

「私個人も名言・名句が好きですし、その言葉を題材として書にし「墨の魂」として何度か個展を開いたことがあります。きっかけはサクラメント州立大学に留学中でした。海外旅行自由化前のことでしたので、日本からの送金が出来なかつたのです。先生に相談すると、とにかく当面の資金を作ろうと私に「書」の展覧会を勧めたのです。書道は義務教育で習つた程度ですし、和紙があるわけではなし、筆も墨もなかつたのですが、現地でロープをほどこいたりして筆を作りしました。それが功を奏し前衛書と言われ、文字をあえて崩した不安定感と当時全世界で流行つた「モノクロ」(白と黒)の世界が時勢にマッチして、初めての展覧会の作品は終了までに完売になりました。

帰国後は妙な自信が出来て、山下公園前の「ザ・ホテルヨコハマ」の地下に画廊もどきの場所を見つけ、何回か個展を開催しました。ドイツの方がその展覧会で16点を購入され、ベルリンにある娘さんの画廊に展示したところ、即日完売の朗報が届きました。

今年はコロナ状況下で横浜市から芸術活動支援の助成金が出ると言うことで、久しぶりに頑張つて個展を開いてみようかと思いましたが、申込書を書いてあるうちに越えられない条件にぶつかつて棄権しました。しかし間もなく自分の力で開催しようと思つております。

タウンニュース
中区・西区版
令和2年6月25日(木)号
・トップニュース
「童謡 赤い靴
三二絵本で復刻」
・人物風土記
で松永団長が紹介されました。裏面へ。



復刻版三二絵本「赤い靴」(サイズ 14cm×13.5cm)
英訳付き ウィリアム・カリー(上智大学・第12代学長)
赤い靴記念文化事業団事務所でも扱っています。
赤い靴関係の方には 300 円で販売させていただきます。
←絵本最終の2ページ

今後のスケジュール

★8/21(金) 第14回東六忌 元町霧笛楼
★9/12(土) 第33期「赤い靴ジュニアコーラス定期演奏会」 横浜市開港記念会館 赤い靴ジュニアコーラス/ATF・青隊・赤隊 横浜☆男声合唱団
★9/13(日) 朗読劇「ことばの贈りもの」仮称 横浜市開港記念会館 横浜市民こどもミュージカル2020メンバー
★9/21(月・祝) 中区ダンスフェスティバル2020 関内大ホール/入場料600円 第1部13時～、第2部18時～
★10/9(金) 延期開催 横濱シネマパラダイス 懐かしいヨコハマの風景と流行の映画音楽 横浜みなとみらい大ホール 15時開演 新日本フィルハーモニー ナビゲーター 池辺晋一郎(作曲家) ドラマトゥルク 中村高寛(映画監督) ゲスト 松永 春 (赤い靴事業団・団長)
★10/17(土)・10/18(日) オペラ「トゥーランドット」 神奈川県民ホール・大ホール 出演：赤い靴ジュニアコーラス

あるとき本屋さんで立ち読みしていた時、齋藤茂太先生の「いい人生はいい人を作る」という本に出会い、今でも身近に置いてあります。

- ・「人は感情を引きずりやすい」「いい感情を引きずって生きよう」
- ・「どうせ」と言う口ぐせを、「もしかしたら？」に変えてごらん。
- ・「成功しよう」とするより、「夢をかなえよう」とする方が楽しい」
- ・「幸福は好奇心から生まれる。」
- ・「出来るか、出来ないか」ではない。「望むか望まないか」なんだ。

書物の中には、学ぶべき人生訓も多く、失敗の時の戒め、成功の快哉など心に残る言葉が多いですね。

さて、「赤い靴通信」は来月で400号になります。33年間、毎月発行し続けた事になります。はじめは「団長の手紙」と言う表題で手書きでコピーしてお渡ししていましたが、ある日、あるジュニアコーラスの団員から「団長、活字にならないの、読みづらいよ」と言われました。パソコンがまだ無く、ワープロで打っていた頃です。手書き文字の方が心に伝わると思っていたのですが、その後、子ども達にも読みやすいように今の形になりました。

最近、何人かの方から本にしたらと言われます。その場その時のエッセイです。ので、振り返ると面白いかもしれません。

そしてお願いですが、赤い靴通信400号を記念して、通信の読者の皆さんの言葉で来月号の裏面を埋めたいと思います。簡単な言葉でも結構です。また、ご意見、エッセイ、希望などお一人300字位で、お名前は書いて頂いても匿名でも構いません。メール・ファックス・郵便で上記事務局までお寄せください。締め切りは7月20日まで。楽しみにしています。

2020・6・30 団長 松永 春

童謡 赤い靴

ミニ絵本で復刻

横浜の魅力語り継ぐ1冊に



山下公園の「赤い靴はいた女の子像」の前で絵本を手にする松永さん（右が復刻版で左はオリジナル本）

横浜を舞台にした童謡『赤い靴』をモチーフに制作され、既に絶版となっていた絵本がこのほどミニサイズで復刻販売された。作者は山下公園にある赤い靴の子像の建立に尽力した松永春さん(91) 人物風土記で紹介。

「赤い靴はいた女の子／異人さんにつれられて／行っちゃった」。1921年(大正10年)、詩人・野口雨情が美しい横浜の情景に魅せられてこの詩を詠み、本居長世の作曲により誕生した童謡『赤い靴』。2番の歌詞

9年11月に市民らの賛同を得て山下公園に「赤い靴はいた女の子像」を建立した人物。翌80年に童謡をイメージして作った物語を、市の広報紙に掲載。それをもとに横浜生まれの水墨画家・森泰章さんが挿絵を描き、86年に神奈川県区の不出版から絵本『赤い靴』が出版された。物語に出てくる横浜の描写には、山手の西洋館や外国人が行き交う街の雰囲気、三角塔がある教会の「トンガリヤン」の呼び名など、当時元町の近くに住んでいた松永さんの幼少期の記憶が色濃く反映されているという。英語訳付きで、横浜土産として長年人気を集めていた。

ロマンつなぐ

赤い靴をモチーフにした横浜土産等の制作販売を手がけるエクスポート 中区IIがこの絵本が絶版になったことを知り復

刻版の制作を提案。松永さんや不二出版の協力を得てこの春復活させた。手に収まるミニサイズやソフトカバーにするなどで、1冊330円と価格を抑えた。「近頃『赤い靴』の童謡を知らない子どもが増えていると聞きます。横浜土産やプレゼントに気軽に利用し、広めてもらえたら」と同社。松永さんも「赤い靴は多くのロマンを生み出しましたが、それだけみなさんに愛されている童謡だということ。この絵本を通じ、横浜の魅力の一つとして『赤い靴』を末永く語り継いで欲しい」と話していた。

絵本は赤レンガ倉庫の期間限定ショップ「横浜赤い靴本舗」や通販サイト「メイドインヨコハマ」などで購入できる。

人物風土記

題字は
林文字 横浜市長

○…誰もが耳にしたことがある童謡『赤い靴』。そのイメージは横浜を象徴するワードの一つだ。この歌をもとに制作した絵本を発売してから30年余、今春、文や絵はそのままと縮刷版が完成した。「とってもうれしい。子どもたちにも読んでもらいたいですね」と目を細めた。

○…横浜の魅力を発信しようと1975年に童謡『赤い靴』を愛する市民の会を結成し、その4年後、山下公園に少女像設置が実現。翌80年1月の広報よこほまには、書き下ろした童話・赤い靴

が掲載され、それが絵本展開。十数年続く市民の基になった。その後はミュージカルは、今や横浜を代表する文化活動と唱団の結成や演劇公演を行なうなど活動を精力的に行うなど活動が精力的に

○…中区出身。吉田新

絵本『赤い靴』も後世に



●今春、復刻した絵本『赤い靴』の原作者

松永春さん

中区山下町在勤 91歳

田の開発に携わった曾祖父を持つ生粋のハマト子だ。市立横浜商業在学中に戦争勃発。「飛行機に乗りたい」という一心で、親に相談もせず東京の陸軍少年飛行兵学校へ。厳しい訓練を受けたが、戦況の悪化もあり「乗る飛行機がなかった」と述懐した。

○…現在は金沢区で娘夫婦と暮らす。昨年11月には「ひ孫が誕生しましたよ」と笑顔満面。元気の秘訣は「常に新しいことを考えること」だという。「11月には書道展を久しぶりに開催しようと準備を進めています」と目を輝かせた。まだまだ舞台化したい構想があるという。「16あるのですが、全部やるようになったら106歳になってしまいますね」と声をあげて笑った。